総務経済常任委員会 行政調査報告

経済活性・観光振興策

調査地
大分県「九重町」

調査項目
観光施設・観光振興策

調査地の概要

①夢大吊橋建設前の状況
町内七ヶ所からなる九重夢温泉郷があり、観光資源が点在している。
しかし、相互の連絡に乏しく、年間六百万人の観光入れ込み客数に対し、宿泊客は五十万人台と、典型的な通過型観光地であった。

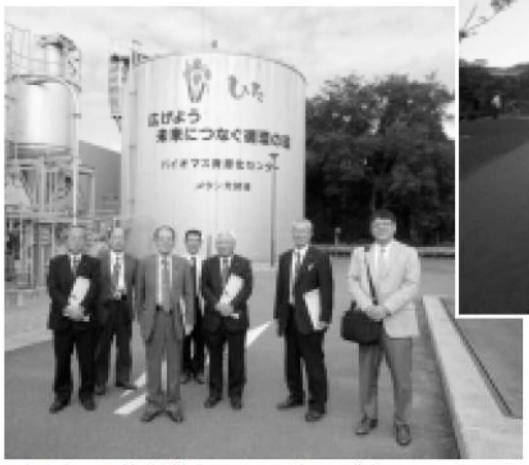
②夢大吊橋建設構想
平成四年度策定の第二次総合計画において、低迷する観光の再生、地域活性化の施策として、核となる観光専用大吊橋の建設を計画。平成十八年に完成。総事業費約二十億円。

③取り組みの成果
○大吊橋関連の収支
二十二年度末時点で、約十四億円の積立金。
○大吊橋入場者推移

年度	年間入場者数
平成18	935,899 人
19	2,051,463 人
20	1,360,733 人
21	1,084,190 人
22	827,785 人
23	454,817 人

⑤調査のまとめ
○通過型観光地という点で、伯耆町と共通点が多い。町内観光資源の再評価、官民一体となった取り組みに注目し、本町でも官民連携で一層の努力をすべきである。
○夢大吊橋関連で約百人の雇用を創出しかつ、指定管理委託先から、多額の指定管理料が町に入る状況になっていた。
本町でも、観光・物販関連の指定管理について工夫の余地があると感じた。

九重夢大吊橋（九重町）



バイオマス資源化センター（日田市）

ゴミ処理対策・再利用

調査地
大分県「日田市」

調査項目
循環型社会

調査地の概要

①バイオマス資源化センター
○循環型社会構築として着工。家庭・事業ごみ・豚糞尿等を再利用。発酵メタンガスで発電。
・発電量３４０ｋｗ
○センター設立背景
畜産業から出る糞尿の内、牛糞、鶏糞等は固形肥料として再利用できるが、含水量の多い豚糞尿の処理ができず、将来の環境負荷が懸念されていた。一方、年間排出可燃ごみの量は、人口減少と比例せず微増。平成十六年には、その焼却量が二万一千トンに達し、市財政の負担要因となる。
そこで、豚糞尿と一般可燃ごみに一部事業ごみを加えて再利用する方策としてバイオマス資源化センターの設立を計画。
○センター設立の成果
平成十六年二万一千トンあった焼却ごみ量は、平成十九年には約六千五百トン（約三十一％）減。
豚糞尿はすべて再利用の目途が立った。

②『日田市』のまとめ
○バイオマス事業は、赤字であり、財政負担が伴う。
しかし、従来の多大な経費を削減、糞尿処理にかかる環境負荷を回避し再資源化を実現している点で、わが町の模範となる実例である。
○また、首長特認で、同一施設で一般廃棄物と産業廃棄物を処理できる「あわせ産廃」という制度も参考となった。